



くろすろ〜ど

2025／1月新年号 第299号

かい ほう し
会報誌

★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★

★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★

げっかん がつ
〜サロン月間カレンダー1月〜

じゅうじつ ねんど にほんごがくしゅうはっぴようかい
「充実した‘24年度の日本語学習発表会」

■日本語学習会

にちじ がつむい か (げつ) にち きん
日時：1月6日(月)〜1月31日(金)
月(午前・午後) 水(午後) 金(午後・夜)

ばしょ かいぎしつ がくしゅうしつ
場所：会議室・学習室ほか

*土曜学習会は以下の3回です。

にちじ がつ にち ご じ
日時：1月11・18・25日 午後2時〜4時

ばしょ かいぎしつ
場所：会議室ほか

■実行委員会

にちじ がつ にち すい ごぜん じ ひる じ
日時：1月15日(水) 午前10時〜昼12時

ばしょ がくしゅうしつ
場所：学習室

■研修部会勉強会・特別講習会

にちじ がつ にち すい ごぜん じ ひる じ
日時：1月22日(水) 午前10時〜昼12時

ばしょ かいぎしつ
場所：会議室

こうし やまだ せんせい
講師：山田しげみ先生

*詳しくは「みんなの広場」をご覧ください。

■文化交流部会・World Cafe

にちじ がつ か きん ごぜん じ ひる じ
日時：1月24日(金) 午前10時〜昼12時

ばしょ りょうりこうしゅうしつ
場所：料理講習室

ていいん がくしゅうしや めい きん か ひ えん
定員：学習者10名(参加費200円)

もう こ しめきり がつ にち きん
申し込み締切：1月17日(金)

■フチュール休館日

がついつたち すい みつ か きん とお か きん にち にち
1月1日(水)〜3日(金)、10日(金)、26日(日)は、
フチュール全体がお休みです。なお、13日(月)は
祝日で、学習会はお休みです。

*以上の件について、詳しいことはサロン事務局で
聞いてください。

ふちゅうこくさいこうりゅう ふちゅう す
府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいくじん なか よ たす あ
日本人と外国人が、仲良く助け合っ
たの せいかつ ねが かつどう
楽しく生活していくことを願って、活動を
つづ 続けています。

きんよう ご ぎ あじま ふみえ
金曜午後ボランティア 安島 文江

がつ か ど かいぎしつ にほんごがくしゅう
12月14日(土)フチュール会議室で「日本語学習
発表会」が開催されました。7ヶ国出身13名の
発表者を含め、総勢102名(外国人38名、日本人64名)
が参加し、盛大な発表会となりました。(7ヶ国はミ
ャンマー、中国、ネパール、フィリピン、ベトナム、
ナイジェリア、スリランカ)

そうごうし かい てらおか きんようご ぎ かいちよう じかんはいばん
総合司会は寺岡(金曜午後部会長)さん。時間配分
も考え、スムーズな進行でした。和田会長の挨拶、
とうきょうむさしふちゅう きかもとふくかいちよう らいひん
東京武蔵府中ロータリークラブ坂本副会長の来賓
あいさつ つづ めい はっぴようしや はっぴよう おこな
挨拶に続いて13名の発表者の発表が行われまし
た。



はっぴようしや しかいしや らいひん かたがた
発表者、司会者、そして来賓の方々

しかい しゅつしん
司会はオーストラリア出身のグレアム・レベッカ
さん。わかりやすい発表者の紹介、発表後の的を射
たコメント、実に素晴らしい司会ぶりでした。13名の
スピーチはどれをとっても、とくちよう おもひ
き込まれてしまう素敵な内容でした。

しゅつせき やまだせんせい
出席された山田先生からのコメントとして

- *話し方もはっきりしていて、聞きやすかった。
- *新しい情報がたくさんあり、内容も充実していた。
- *発表者の努力、そしてボランティアさんの力も大きい。

などなど、たいへんほめていただきました。

発表者の発表のあと、和気あいあいの懇親会に移り、みなさん大いに交流を深めることができました。

発表者からは、「とても緊張してドキドキだったけれど、すごく楽しかった」「最初は不安だったが、何とか発表できて自信がついた」などの声がありました。

また、発表を聞いた方々からは、「発表者のスピーチに聞き入ってしまった、感動した」「素晴らしいスピーチだった。このような活動をもっと多くの人に知ってもらいたい」などの声がありました。

今回の「日本語学習発表会」は、13名の発表者がしっかりと自分の主張を述べ、その後の懇親会も終始なごやかな雰囲気でした。全員が一体となって楽しむことができた、素晴らしい発表会だったと思います。

このような充実した発表会を来年以降もぜひ続けていってほしい、と感じました。



世界の文化

「日本語学習発表会の原稿を紹介」

2024年12月14日(土)に、日本語学習発表会がありました。そこで発表された内容を随時、紹介します。

「日本に来てから」

張 紅 (中国)

皆さん、こんにちは。今日はスピーチに参加できて、嬉しく思います！

私は中国人です。子供は二人います。今年3月中旬に家族で日本に引っ越してきて、今は専業主婦をしています。大学では日本語を勉強しましたが、日本語を使うのは久しぶりで、ほとんど忘れてしまいましたので、ここで日本語のリスニングとスピーキングを上達させたいと思い、毎週月曜日に府中国際交流サロンに来ています。

今日、私のスピーチのテーマは「日本に来てから」です。日本に来てから見た、感じたいいくつかのことについて発表します。

まず、挨拶の文化ですが、日本では公園で知らない人でも挨拶しますが、中国人は大抵知っている人にしか挨拶しません。

次に、学校の運動場と町の公園です。中国の公園は人が入れるところの地面がコンクリートで、学校の運動場もそうです。スポーツエリアは人工芝か合成ゴムです。日本の公園や学校の運動場はどれも砂地で、子供は白い靴を1日履いたら砂で汚れて洗わないといけません。履いて洗わないと、白い靴には、まったく見えないです。だから、これからは子供には濃い色の靴を選ぶことにしました。

それから、クリニックや病院についてです。中国では入院した場合、家族に世話をしてもらい必要が



ありますが、日本ではその必要はありません。入院後は医療スタッフが面倒をみますし、食事事も提供されます。この夏、私の子供は病院に入院しましたが、とてもよく面倒を見てもらいました。さらに、日本は子連れで出かけるママ達にとっても優しい。私はこの



前、日本で歯科医院に行ったときに驚いたのは、生後数ヶ月の赤ちゃんを連れてお母さんが来院すると、スタッフが赤ちゃんを預かってくれて、お母さんは赤ちゃんを気にすることなく安心して歯の治療を受けることができたことです。ほんとに優しいです。

食材の販売について、日本では小分けにされています。野菜にしろ肉にしろ魚にしろ、売るときにはすべて小分けに包装されているし、特に魚はきれいに扱われていて、リンゴや梨、柿などの果物もすべて1個単位で売られています。中国は野菜や果物はほとんど量り売りです。

最後は、日本人の礼儀正しさを感じたことです。公共の場でも日常生活でも、人々はいつも笑顔で、礼儀正しく人に接しています。この礼儀正しさは言葉だけでなく、行列に並ぶときは静かにするなどの行動にも表れています。

要するに、日本に来て感じたことは、生活がしやすく便利になったということです。最初は慣れないこともあります、今は少しずつ馴染んでいます。今ここに座ってる皆さん、私のように日本に馴染んでいる人もいるはずですね、一緒に頑張りましょう。

では、私の話は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

皆さん、楽しい週末をお過ごしください。

「『府中市民協働まつり』に参加」

金午後ボランティア 菊地 加代子

11月23日(土)に「府中市民協働まつり」がル・シーニュのプラッツで開催され、サロンも参加しました。午後の部を担当した金曜日午後クラスからは、韓国のイ・スジンさんとボランティアの伊藤さん、ネパールのジャムナさんとボランティアの荒木さんのペアに加え、応援のボランティア4名と一緒に参加しました。

市民活動センタープラッツの5階「世界のひとと友達になろう」のスペースに国際交流団体の1つとしてブースがあり、金午後クラスの参加者は来訪者の名前をハングルやネパール語で書いたり、それぞれの国や文化の話をして交流しました。用意したスタンプで来訪者がスタンプアートを楽しみ、応援のボランティアはスタンプアートの手伝いや来訪者への声かけをしました。

国際交流スペースでは各国のコスチュームを試着して写真をとったり各国の紹介スペースで気楽に楽しく世界の人たちと交流していました。

他に市民活動交流スペースで「楽しく学ぼう！やさしいフェス」でベジチェックと普段の野菜摂取のレベル診断をうけて塩こんぶをもらいました。

6階の会議室では展示や体験コーナー、中高生のイベントコーナー等がありスタンプラリーに参加して各コーナーでスタンプをもらい、市内の環境美化や子ども食堂等、地域の活動団体の様子を知ることができました。とても楽しかったです。



「幸せを願い」

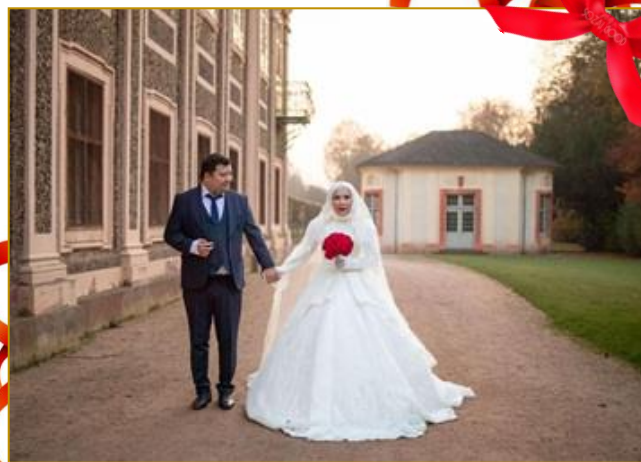
ヌルビヤさんのドイツでの結婚式へ」

金曜夜ボランティア 橋本 せい子

彼女の念願がやっと叶い、彼の待つドイツへ飛び立ったのが8月。慌しく準備して飛び立ったことを後で知る。夏休み中なのでお別れの暇がなかった。そしてある日、結婚式の招待メールが。それは2ヶ月前位だったろうか。結婚式は11月9日、場所はドイツのKalsruhe(カールスルーエ)、フランスが近くライン川沿いにある。驚きながらも嬉しくすぐに出席の返事を。けれども色々考えるうちに迷いが…。そして結局、欠席の返事を伝えた。すると彼女は電話の向うで「とても楽しみにしていた」とのこと。その言葉でまた心が揺らいだ。結果、私は出席を決意し彼女に伝えた。これはきっと彼女との絆だったのかもしれない。おかげで私はドイツと日本の生活や文化などの違いを体験でき、ほんの少し今日の日本が垣間見えた気がした。お二人に感謝である。

花嫁の支度は化粧からドレスの着付けまで全て友達が行った。そしてお客様のテーブルにはヌルビヤさんが思いを込め作った手作りパン。200枚以上、2日間以上、遅くまで丹精込めて作り続けたウイグルナンとサムサ、その思いに込めた願いを思うと涙がこぼれた。お料理も美味しいウイグル料理。こうしてパーティーは沢山の仲間からの祝福で溢れていた。花嫁の支度は全て女性の友達が。会場はホテルのホールで、全て男性の友人達の協力ですべて出来上がった。そうして始まった宴は仲間の祝いのウイグル舞踏で始まった。踊りは優雅で気品に満ちている。とても美しい。一番の感動は新郎新婦二人だけのダンス披露、カップルは真剣そのもの。決意が伝わり全員見とれて声も出ない。最高の感動のシーンだった。そこには友情で結ばれた仲間との助け合いで築かれたあたたかい友情あふれる結婚披露パーティーだった。二人の出会いにエールを、未来に希望と幸多かれと祈る。

ヌルビヤさんが長年日本での研究勉強にいそしんだのはお国の為に貢献したい思いから。けれど今は叶わぬ夢となった。彼女の国、東トルキスタンは大国の深刻な人権侵害や民族弾圧を日常的に受けている自治区である。ジェノサイドの疑いもあり、国連はすでに「ウイグル自治区の人権状況を特に懸念している」という声明を発表し、また国際社会からも多くの非難の声が上がっているが、未だ解決の進展がない。



わたし
私のふるさと～54～

「ふるさと小景」

金曜午後ボランティア 森田 正治

1953年(昭和28年)渋谷区代々木に生まれた私は、幼いころ世田谷区に引っ越し、結婚して府中に移るまで世田谷の住人でした。その後も平成31年まで世田谷にある学校に勤めていましたので、私にとって故郷といえば「世田谷」になります。

世田谷といえば、三軒茶屋、成城、下北沢や二子玉川など、今では「洗練された高級住宅街やお洒落なお店が多い」というのが世間一般のイメージですが、50数年前の風景を思い起こすと、その変わ

りようはまさに夢か 幻 かといったところです。

幼い頃の記憶の一つは、我が家の庭にあった柿の木です。我が家だけでなく、近所の子の庭には実のなる木がよく見られました。イチジクやザクロ、アケビのある家もありました。そんな家の周りは、国道246号という幹線道路から少し外れると、良くて砂利道、多くは泥道で、雨の日の登校には必ずゴム長靴を履いていました。春には近くの田んぼでオタマジャクシ、夏には林でカブトムシやクワガタムシ、秋には赤トンボが町なかでも当たり前のように見られました。電線にたくさんのツバメが音符のように並んでいた情景も忘れられない思い出です。

そんな町の様子が少しずつ変わり始めたのは、昭和33年に東京タワーが完成したところからです。信号機の少ないところを子供でさえ簡単に渡っていた国道に自動車が増え、昭和39年の東京オリンピックが開かれたころには空気が汚れ始めました。空気だけではありません。近くを流れる目黒川も鼻を突くような異臭を放つどぶ川になりました。高度経済成長期の始まりです。

昭和41年にザ・ビートルズが初来日し、翌年、モデルのツイッギーが来日してミニスカートブームが巻き起こると、そのような変化にさらに拍車がかかりました。渋谷と二子玉川園を結んで246号線を走っていた路面電車の「玉電」が、交通渋滞の原因の一つと考えられ、首都高速道路の建設計画もあって、昭和44年に廃止されてしまいました。

その何年後、246号線の地下には田園都市線が、上には高架の首都高速3号渋谷線が通り、その沿線には高いビルが次々に建てられて、町の風景は一変してしまっただけです。オリンピック開会式の空に、航空自衛隊機がスモークで描いた五つの輪を見た我が家の物干し台に、昔のような明るい日差しは届かなくなっていきました。その後もその姿を変え続けていった故郷ですが、変化のスピードは増すばかり。今ではかつての住まいの周辺に、昔を偲ぶよすがを見つけることはほとんどできません。

まとまりなく書き散らしてしまいました。そろそろ紙幅が尽きたようです。諸行無常と諦めて、長くため息をつきつつ筆をおきます。(記憶に誤りがあるかもしれません。ご容赦ください。)



画像提供 : NHK



画像提供 : 笹川スポーツ財団

こんな教え方しています

～ 22 ～

「楽しく学習！」

金曜午後ボランティア 百瀬 洋子

私は中国から来日された「白丹卉さん」と学んでいます。2024年6月に来日され「府中国際交流サロン」には11月からいらっしやっています。中国では英語教師をされていたとのこと。「みんなの日本語初級I」の教本で独学されていて第16課まで進んでいます。初めは会話を中心に！とご希望でしたが、英語の先生ならと考え「N+V」の文型で、動詞グループ分け、形容詞の種類や分類分けなどわかりやすいことから始めています。色々な動詞、形容詞を漢字で書いてみるのも勉強になります。日本語ってなんて面白いんだろう！と感じています。

十年も前のことですが、イギリスから来日されたYさんからクイズを出されたことがあります。

Yさん「これはクイズです」

私 「はいどうぞ」

Yさん「おもてなしの場所ってどこですか」

私 「おもてなしは、どこでもできますね」

Yさん「それは、NOです」

私 「どうして」

Yさん「場所は表無しですから」

私 「そうですね？裏のことかしら」

Yさん「そうです」・・・二人で大笑いしました。

今はなつかしい思い出です。来年もコミュニケーションを大切に楽しく学習していければと思っています。

新ボラさん こんにちは

「まずはやり取りを楽しみたい！」

月曜午後ボランティア 今井 乃理子

こんにちは、今井乃理子と申します。まだ研修中ですがついにボランティアが始まり、とてもワクワクしています。府中に住んで27年になります。海外経験は全くないのですが語学はなんとなく好きで、独学でハングルをちょっと勉強してみたりしていました（韓ドラにハマっていたので）。大学の専攻はアラビア語でした。でも使わないのでもう全部忘れてしまいました。そして今度は、日本語ってどういう言語なんだろう、一体どうやって外国人に教えるんだろうという興味から、今回の教授法研修を受けてみようと思いました。

趣味は弓道と太極拳です。太極拳がきっかけで、今は中国語の独学中です。今まで聴いたことのない音、日本語の発音では使ったことのない口の筋肉、文法から垣間見える民族性等、五感フル活用で楽しいです。でも話す機会がなく、使わないとやはり定着は難しいです。きっと同じような学習者さんも多いのではないかと思います。

研修を受けながら日本語の難しさに毎週挫折しそうですが、言葉はコミュニケーションの道具のひとつ、まずはやり取りを楽しみたい！そして学習者さんの要望にこたえられるよう、細く長く、自分のスキルアップに努めたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

(注)この原稿は昨年9月にご寄稿いただきました。



みな 皆さんよろしく◇学習者紹介

「買い物とか、ひとりでできるように」

モニ エルマ アクター リヤさん (バングラデシュ)



私のニックネームは、リヤです。バングラデシュのナラヤンガンジ市(首都ダッカの南東)の出身で、2023年8月16日に来日しました。府中国際交流サロン

に来たのは、2024年6月15日です。

来日の理由は、主人の仕事が日本になったためです。2歳の子供もと3人で府中に住んでいます。

趣味は、料理と読書です。料理はベンガル料理を作ります。牛肉カレーや、ビリヤニ(鶏肉やマトン、牛肉などご飯との炊き込み)です。日本食で好きな物は、おにぎり(ツナマヨ)、ラーメン(牛肉、醤油かな?)、寿司はダメじゃないです。納豆は好きじゃない。日本のカレーは辛くないけど、子供は日本のカレーが好きです。読書は、[フマーユーン・アハメド](#)(母国の小説家)の本を読みます。

自分の性格は、恥ずかしがりやです。

日本の印象は、安全で、清潔で、やさしいです。夜、外を歩いても大丈夫ですし、道路や公衆トイレも、清潔できれいです。

サロンは、親切で、日本人と話すことや日本語を勉強することは役に立つと思います。日本語を学ぶことで、将来、家族で日本語の会話をしたいと思っています。なお、主人はN3を取得しています。

でも、主人は忙しいので、日本での生活(買い物や市役所に行くこと等)をひとりでできるようにしたいです。

好きな日本語は「こんにちは」です。会って最初に使う言葉だから好きです。(聞き書き・末田)

～教授法研修初級Ⅱ 在留資格研修～

「これだけは知っておきたい 在留資格の基礎知識」

研修部会 佐藤 英子

11月16日(土)、上記の勉強会が開かれました。これは「日本語教授法研修初級Ⅱ」の必修科目の一つで、今年度の新人ボランティアと現ボランティア合わせて27名が参加しました。講師は金曜午後部会の部会長で、行政書士の寺岡奈都子さん。

最初に、在留資格とは何なのかの説明がありました。在留資格とは「外国人が日本に滞在している理由」を公に説明する身分証明であり、法的な資格です。

現在は主に就労の可否を基準に、29種類に分けられています。例えば日本語を学びに来た外国人学生は「留学」、日本で働いている外国人の配偶者は「家族滞在」という在留資格に相当します。そして3か月以下の短期滞在者を除いて、すべての外国人に対して身分証明書である在留カードが出入国在留管理庁(入管)から発行され、この在留カードは常に携帯することが求められています。

雇用者が外国人を雇う場合は、このカードに記載されている項目のうち、①在留資格 ②就労の可否(「留学」や「家族滞在」は申請すれば風俗営業を除いた週28時間内のアルバイトは可で、その旨が記載) ③在留期間の三点は必ず確認し、前もってトラブルを防ぐようにします。

語学留学で来日、その後日本の企業に就職したという外国人はサロンにもたくさん来ていますが、では専門学校・大学に入学→アルバイト→就職→引越→転職→一時帰国→結婚→子供の出産等を日本で経験した場合、在留資格はどうなっているのか? 一人物の具体例を通して知ることができました。とにかく生活状況が一つでも変わったら、その都度すぐに入管に申し出て、必要な手続きをすることが最も重要なこととわかりました。

私たちボランティアは、もし学習者に在留資格

のことで何か相談されたら生半可なことは言わず、行政書士や入管(品川、立川)を訪ねるようにアドバイスしましょう。「永住権」取得を考えている外国人にも、①国民年金・国民健康保険への加入 ②税金の支払い ③交通事故を起こさない ④一定の年収を恒常的に確保等の、基本的な情報は伝えても、具体的な事柄に関しては専門家に相談することを勧めましょう。

2021年のスリランカ女性の死亡事件以後、入管体制も少しずつ見直されてきているということです。が、実際にあった様々な事例を聞くと、在留資格の延長や変更の申請に対して認可のハードルはかなり高そうで、外国人が日本で生活していくのはなかなか大変だという感慨を抱きました。お金をたくさん落としてくれる観光客には国はwelcomeで、「おもてなし」ですが、故国の難から命がけで逃れてきた人や、日本で思わぬ災難に会ってしまい困窮に陥ってしまった人など、本当に助けが必要な外国人に、国の対応がもう少し融通のあるものであってほしいと思います。



ひろ ば

みんなの広場

「第111回勉強会・特別講習会開催」 ～動詞の「て形」の重要性和教え方について～

研修部会主催の勉強会も今回で111回目を迎えることになりました。今回は、日頃、日本語教授法研修会の講師を担当していただいている山田しげみ先生による特別講習会です。

講義の内容は、初級で学ぶ項目のなかでも特に重要な「て形」についてです。「Vてください」「(依頼)」「Vています」「(進行形)」「Vてあります」「(状態)」等々、その用途は多岐にわたり、この表現を修得すると学習者の発話力が一段と広がるといわ

れています。その「て形」の作り方、用途をはじめ、動詞のグループ分けについてもお話しいたきます。受講対象はすべてのボランティアです。復習をする良い機会ですので、多くの方の参加を是非お待ちしております。

■日時：1月22日(水)午前10時～昼12時

■場所：会議室

■対象：ボランティア(定員60名)

■講師：山田しげみ先生

(TUFS オープンアカデミー講師)

■参加費：無料

■申し込み方法：事務局に用意してある応募用紙に名前を記入(定員に達し次第締切)

*詳しいことはサロン事務局にお問い合わせください。(研修部会)

「新春・広報紙にサロン学習者が登場」

2025年1月1日元旦に発行された『広報ふちゅう』では、巻頭の特集として、「多文化共生を目指して」というテーマで、府中市に住み、それぞれの分野で活躍する外国人と高野市長との対話の場が持たれ、その模様が掲載されました。

対談には3ヶ国3名の外国人が参加し、府中国際交流サロンからグレアム・レベッカさん(オーストラリア・月午前学習者)とセルバラジャ・クシャルさん(マレーシア・金午後学習者)も参加されました。外国人が多文化共生をどのように考え日本に暮らしているか、また、お二人が市長とどのような話を交わされたか、ぜひ、ご一読ください。(編集部)



～編集後記～

昨年(2024年)は、ベートーベンの「第九」が完成し、1824年に初演が行われて200周年の佳節を迎えた。

ベートーベンは、シラーの「歓喜に寄す」の詩に感動し、30年余の歳月を要して交響曲を完成させる。

1798年ごろから聴覚の異常を感じ、後に聴覚を奪われた彼は、自ら命を絶つことを考え、遺書を残すまでに追い込まれた。だが、自らの運命に抗い続け数々の名曲を生み出す。

冬の時期、病氣と闘っている人もいる。日本へ来て辛いことに直面している人もいるでしょう。ベートーベンは「苦悩を突き抜けて歓喜へ」と記している。また「芸術はわれわれに立ちどまってはならないと命じているのだ」(参考文献：津守健二著『ベートーヴェンの言葉』朝日新聞社)とも。

苦悩を突き抜けた時には、勝利と歓喜の青空が広がっている。新年を迎え、新たな気持ちで希望を生み出し、立ちどまることなく、前へ前へと進みましよう。(末田)



【創刊】1997年11月

【編集】編集長：和田泰弘

会報部会：末田・和田・堤林・岩城

【事務局】電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>

